

ジャガイモシストセンチュウからばれいしょを守ろう

ばれいしょは、病害虫の蔓延防止のために、植物防疫法で指定された「指定種苗」品目です。種ばれいしょは国が指定した11道県で生産され、そのうち97%は北海道産です。北海道から他の地域へ出荷される種いもの防疫については、検査項目が多く、厳しくチェックされています。

現在、北海道における種ばれいしょの生産農家の数や栽培面積は年々減少しています。その原因は、シストセンチュウの発生面積が拡大していることや農家の世代交代が進み、週1回の農薬散布や防疫検査への対応など、手間が多く心理的な負担も大きいことで、より労力の少ない作物に移行する農家が増えています。

【ジャガイモシストセンチュウとは】

- ・植物防疫上の重要病害虫で、**発生ほ場では地区単位で道外移出用の種いもが生産できません。**
- ・北海道・長崎県・青森県・三重県・熊本県で確認され、発生が拡大中（特に北海道）
- ・発生すると、**収量が最大50%以上減収し、10年以上シスト体で生存し根絶困難。**
- ・本県の栽培品種のほとんどは抵抗性品種ではありません（図1）



ジャガイモシストセンチュウによる被害ほ場(右)と(左)



（農水省「ばれいしょをめぐる状況について」）
発生が確認された北海道の市町村

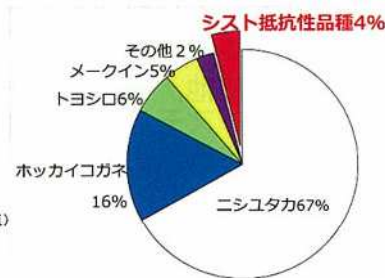


図1 本県の品種構成

※北海道の種場産地からは、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種への
早急な切り替え要請を受けています。

【ジャガイモシストセンチュウ対策】

- 1 **未発生ほ場に侵入させないことが重要。**植物防疫官が検査し、病害虫がいないことを確認した「合格証票」の添付された種いもを使用しましょう。
- 2 **抵抗性品種の導入・栽培が最も有効**とされています。

【ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種「しまあかり」の特性】

ニシユタカに比べ、

- ① 収量は同程度、ただし収穫適期はやや遅い 植付後100～120日
- ② そうか病・粉状そうか病にやや強い ③ 出芽揃いがやや遅い
- ④ 葉色は淡く、草勢は旺盛 ⑤ 地上部黄変（収穫適期）がやや遅い
- ⑥ 外観がきれいで食味良好

出芽対策として、北海道産種いもを利用する場合は、種いも収穫後90日経過した11月下旬以降の植付を行いましょう。

自家冷蔵種いもを利用する場合は、北海道産種いもを植付し4月末までに収穫して約130日経過した9月以降の植付を行いましょう。



「しまあかり」の塊茎

STOP! 農薬の飛散防止

- 1 適期・適正な防除を
- 2 農薬使用基準の遵守→容器等のラベルに記載されている使用方法を読んで正しく使いましょう。
- 3 **農薬の飛散防止**→農薬を散布する時は、周辺農作物に飛散しないよう、風向や防除器具のノズルの向き等に十分注意すること。なお、隣接ほ場における耕作者同士の農薬散布の事前情報交換を行うこと。
- 4 散布作業者の安全の確保
- 5 **防除器具の洗浄**→防除器具は使用後速やかに十分に洗浄すること。
- 6 農薬の適正な管理等→ 施錠できる保管庫等で厳重に管理すること。